

こんな時代もありました



～上空から学園敷地を臨む～

六方

543

2015 12月号
編集・発行
社会福祉法人六方学園
〒739-0036 東広島市
西条町田口391-3
Tel (082)425-1015
Fax (082)425-2660
<HP >
www.roppou-gakuen.com

福来朗

学園の地に 古代のロマンが駆けめぐる

▲自活ホームも計画どおり四月にオープンし、総じて良き一年にめぐまれた。思い起こせば、広島を離れ何のつながりのない未知の西条に移る苦渋の決断をした理事会。人びとの中には新天地への希望もあったが不安と落胆が伝わってきた。初めて松林に囲まれた何もない予定地に立ち茫然とした気持ちが残る。▲しかし西条の地を選択した陰には、深い信頼のある方からの開発計画の情報を得て百年の計にかけたもの。新築移転し早や五十年、官民が集い刻々と変貌する都市になろうとは誰も想像しなかったと思う。西から北に面した高い丘から、東南に広がる学園の地形は風水方位に適しているのか。▲遠方から訪問して下さった方から「空気がおいしい」とか「清々しい環境ですね」と開口一番に話される事が多い。この一因には、松の存在が大きいのではないかと実感している。風が松林を通り空気を浄化し、高い方から低い地に吹きおろす道なのか、松さえあれば人は餓死しないという。昔の人は非常食として心得ていた。▲こうした環境なのか、学園から百m程の一角に旧石器時代の住居跡と出土品が発掘され「西ガガラ遺跡」として一般公開された場所がある。約二万八千年前頃と推定され、直径十m程の住居跡が。東側の低丘陵に位置したこの場所に人びとが生活していた所と思うと、古代人の衣食住と行動範囲にロマンが駆け巡る。

(記・園長)